

■安藤百福 インスタントラーメン、カップヌードルを発明し、世界の食文化に革命をもたらした。

あんどうももふく

韓国併合・・・1910＝

明治天皇没・1912＝2歳：

当時日本の植民地だった台湾の嘉義庁樸仔脚で、資産家呉獅玉の子に生まれ、百福と名づけられる。

兄2人いて、妹が生まれてまもなく、両親を亡くし、兄妹とともに、台南市で繊維の製造・販売をする祖父に引き取られる。食事の時には、職人たちも大勢集まるような家で、厳しいしつけ受けながら、どんなことでも自分でやるように育てられ、やがて、何でも手伝ううち、商売の面白さも分かるようになり、算盤には、異常なほど強い興味を持って、計算を軽々とこなしていたという。

べつじん条約・1919＝9歳：

原敬首相暗殺1921＝11歳：

自立心も強くなって、自ら暗いうちに起きて、家事も率先してこなし、祖父の許可を得て、妹とともに、母屋を離れて独立の生活。何より食べることが好きで、料理が得意になって行く。

護憲三派圧勝1924＝14歳：

共産党事件・1928＝18歳：

高等小学校を卒業し、祖父の経営する繊維の製造・販売を手伝う。

海軍軍縮条約1930＝20歳：

満州事変・・・1931＝21歳：

五一五事件・1932＝22歳：

すでに、将来は商売の道を歩みたいと決めており、友人の父からの紹介で、町に初めてできた図書館の司書になると、仕事に邁進、手当たり次第に本を読んで教養も身につけるも、辞め、繊維業界で祖父の商売敵にならないメリヤスの存在に注目、父の遺産を元手に、「台北市永楽町に、{東洋莫大小}を設立して独立、日本内地から製品を仕入れて台湾で販売すると急成長、才覚を示す。」早くも大阪に進出し、{日東商会}を設立する一方、立命館大学専門学部経済科(二部)に入学して、修了。

国際連盟脱退1933＝23歳：

帝人疑獄事件1934＝24歳：

「自社で扱う商品のほとんどを自身で考案、他にはないと評判はうなぎのぼり、

日中戦争始・1937＝27歳：

この間、日本一のメリヤスメーカーの工場長と意気投合、誘われると、まだまだひ弱だった東京までの翼が布張りの単葉機にも乗って操縦桿を握ってみるほど、好奇心が旺盛で、関西財界人の集まる{大阪クラブ}の出会いから、「トウゴマを栽培して実からひまし油を採取、葉を養蚕用に売る事業も手掛けたりするが、太平洋戦争が始まって、できなくなり、さまざまな事業を試みるうち、軍需工場の経営に携わった際、台湾出身のため、憲兵から拷問を受け、知り合いの陸軍関係者の尽力によって釈放、九死に一生を得るも、深刻な内臓疾患を抱えることになる。同時に、「食」の重要性を痛感している。

日米開戦・・・1941＝31歳：

この間、一目惚れした{大阪クラブ}の受付嬢仁子と結婚。空襲が激しくなり、兵庫県の上郡町に疎開、敗戦で、中華民国籍、つまり外国人になる。大阪府泉大津市を本拠に再スタート、「大阪梅田の闇市でラーメン屋台にならぶ行列を目撃し、「食足世平(食足りて世は平らか)」と、食品事業を手掛けることを決意。

敗戦・・・1945＝35歳：

広大な土地を借りることが許可され、製塩業を始めると大成功、人材殺到、救世主のような存在に。

新憲法公布・1946＝36歳：

新憲法施行・1947＝37歳：

極東裁判決・1948＝38歳：

私財を投じて、名古屋に、奨学金付き全寮制の{中華交通技術専門学院}を開校、まさに社会貢献、「魚介類を加工・販売する{(株)中交総社}を設立、仕事で縁のあった厚生省の栄養課長に麵食を進言したところ、自分で研究すればと言われてしまう。専門家を集めて{国民栄養化学研究所}を設立し、牛や豚の骨からたんぱく質エキスの抽出に成功、ペースト状の栄養商品「ビセイクル」として病院にも供給もするが、GHQに脱税の嫌疑をかけられ、巣鴨拘置所に収監され、個人名義の不動産は全て没収され、{サンシー殖産}に社名変更。」裁判を起こすと、GHQが取引に転じ、応じて釈放されるも、再び振出しに、{中華交通学院}は閉校。」大阪に新設の信用組合から懇願され、理事長に就任するものの、

三大事件・・・1949＝39歳：

独立回復・・・1951＝41歳：

55年体制始・1955＝45歳：

なべ底不況・1957＝47歳：

「倒産し、財産を没収され、ついに無一文になる。厚生省にも進言していた麵食を実現すべく、即席(インスタント)麵の開発に着手、池田市の自宅敷地内に作った小屋に籠って試行錯誤、*ついに、完成した試作品を、貿易会社を通じてアメリカ合衆国に送ったところ注文が入り、日本で発売する前に輸出。社名を{日清食品}に変更し、「チキンラーメン」という商品名で日本での発売を開始。当初は問屋の反応は芳しくなかったが、ある日から、爆発的な売れ行きになる。大量生産するべく大阪府高槻市に2万4000平方メートルの敷地を購入(売り上げ1か月分で賄うことができたという)して工場を建設。

インスタントラーメン・1958＝48歳：

安保闘争・・・1960＝50歳：

「類似品が多数出回るようになり、商標や特許でブランドを守ることに努めるも、他社は共同で、「チキンラーメンは普通名詞である」と{全国チキンラーメン協会}を設立、法的紛争は数年にわたって続く。」

全国総合計画1962＝52歳：

TV宇宙中継始1963＝53歳：

東京リビック1964＝54歳：

「食糧庁の勧告で、{日清食品}を含む56社で、{社団法人日本ラーメン工業協会}を設立、その理事長に就任し、インスタントラーメンの安全、信頼の確保のための仕組み作りに取り組んで行く。

いざなぎ景気1966＝56歳：

日本の国籍を再取得。かつて学んだ立命館大学から、名誉経営学博士号。「海外進出を図るため、欧米を視察、アメリカで、あるスーパーマーケットへチキンラーメンを持ちこんだところ、紙コップしかなく、そこに入れて、湯をかけてフォークで食べたのを見て、「カップヌードル」を思いつき、

全共闘ピーク・1969＝59歳：

「試行錯誤の後、麵の固まりの上から容器をかぶせる方法によって商品化、正規のルートで販売することができず、給湯設備付きの自動販売機を設置したところ、少しづつ売れるようになり、

大阪万博・・・1970＝60歳：

日中国交回復1972＝62歳：

「初の海外現地法人{アメリカ日清}を設立。*「あさま山荘事件」が起こり、機動隊員がカップヌードルを食べている姿がテレビに映り話題になるや、爆発的な売れ行き、東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所の第一部に上場に至る。」

石油ショック1973＝63歳：

角栄心脈辞任1974＝64歳：

アメリカで、「カップヌードル」を発売。食糧庁長官から開発を持ちかけられた「カップライス」は、政治家や専門家からは高く評価され、多額の設備投資をして発売したが、米が高価であったため、消費者からは敬遠され、早期撤退。

貿易摩擦問題1980＝70歳：

・・・1981＝71歳：

「年間売上一千億円を達成すると、社長の座を長男の宏寿に譲って、会長に退き、かねての関心事「日本人は何を食べてきたのか」を探究すべく、日本各地を巡って郷土料理を食べる旅に出、

中曽根内閣・1982＝72歳：

デイズ・イベント・1983＝73歳：

・・・1984＝74歳：

「{読売新聞}に「食文化の源流を訪ねて～食足世平」を連載。」

ジャポ機墜落1985＝75歳：

竹下内閣・・・1987＝77歳：

「次男の宏基が社長に就任し、再び会長専任になると、再び、国内の旅を続けた後、{麺ロード調査団}を結成、中国全土を巡って、300種類を超える麵を食べ、文化人類学者の石毛直道にシルクロードを通じて世界各地に伝搬した麵の歴史を研究させて麵の系譜図をつくって貰う。」

ソ連崩壊・・・1991＝81歳：

55年体制終・1993＝83歳：

オウム(サリ)事件1995＝85歳：

・・・1996＝86歳：

年間売上二千億円を達成する。阪神淡路大震災の被災地に、インスタントラーメンを緊急支援。立命館大学名誉博士。食品業界におけるベンチャーを奨励するために基金を設立、日本経済新聞社の後援の下、{食創会(新しい食品の創造開発を奨める会)}が、安藤百福記念賞出している。

金融破綻・・・1997＝87歳：

小原都知事・1999＝89歳：

小泉北朝鮮・2002＝92歳：

イラク戦争・2003＝93歳：

小泉郵政選挙2005＝95歳：

・・・2006＝96歳：

・・・2007＝97歳：

「第一回世界ラーメンサミット・東京大会」が開催され、{世界ラーメン協会}が発足、初代会長になる。最初の開発の地・大阪府池田市に、「インスタントラーメン発明記念館」が建設される。勲二等旭日重光章を受章。この頃から、世界初の宇宙食ラーメン「スペース・ラム」の開発に取り組み、会長を退任し、創業者会長就任。「スペース・ラム」が、宇宙飛行士の野口聡一によって食された。タイム誌のアジア版60周年記念特集「60年間のアジアの英雄」の一人に選ばれたが、急性心筋梗塞のため、没した。前日まで訓辞行い、昼休みには社員とチキンラーメンを食べたというから、まさに生涯現役であったといえよう。数日後の米紙ニューヨーク・タイムズは社説でその死を悼み、絶賛と驚きを表明した。